



今回の紙面

- ◆ 新年のあいさつ《木村清志》 ◆ WWAMI 報告《白石吉彦》 ◆ 看護師さんのページ NO. 4 《中筋真紀》
- ◆ 研修医のページ NO. 9 《木原恭一》 ◆ 研修医意見交換会報告 ◆ 医学生地域医療セミナー報告
- ◆ 地域医療最前線 NO. 2 3 《日野理彦》 ◆ 地域医療最前線 no. 2 4 《石田雅人》
- ◆ 勤務医師実態調査報告 ◆ 島根県の移植医療について ◆ 島根県からのお知らせ



新年明けまして

おめでとうございませう

島根県健康福祉部医療対策課
医師確保対策室長 木村清志



昨年を振り返ってみますと、四月に、医師確保対策室が設置され、数値目標

を設定し、医師確保業務を開始しました。即戦力となる医師の確保に関しては、島根大学医学部同窓会、県医師会や高校同窓会にご協力を頂いたり、インターネットを利用するなど様々なネットワークを活用し情報を集め、全国各地に足を運び面談を行ってきました。これまで五十名程度の医師と面談を実施し、その内二十六名の医師とは、具体的に勤務条件等を提示し、本県での勤務に向けて働きかけを行って参りました。現在、数名の医師の着任が内定しております。さらに数名の医師と最終調整を進めております。

次に、将来へき地等で勤務する医師の育成に関しては、島根大学が取り組んでおられる「日本版 WWAMI プログラム」がより実践的なものとなるよう、医学生の実習受け入れ機関における指導医のレベルアップや、地域医療を实践する側から島根大学に対して必

WWAMI 体験レポート

地域医療現場で医学生、臨床研修医を受け入れる立場として、コロラド州デンバーにあるコロラド大学家庭医学

2006/10/29 から 11/4
隠岐島前病院長 白石吉彦

コ
ロ
ラ
ド
デ
ン
バ
ー
滞
在
記

最後に、昨年は県内の医療機関に勤務する医師の実態調査を初めて行いました。結果の一部を本号の中で後ほど報告いたします。本年も、医師確保に全力で取り組んでいく所存でありますので、皆様方の変わらぬご支援、ご協力のほどよろしくお願い致します。

要な提案等を行うため、「島根県地域医療教育連絡会」を設置しました。九月には地域医療機関、島根大学医学部と県が一堂に会して、意見交換会を行いました。この連絡会を介して、地域医療機関の指導医の中から七名の方に実際に米国の WWAMI プログラムの見学体験をして頂きました。また、島根大学の地域枠推薦の入学者に対する奨学金制度等を創設するとともに従来からの奨学金の返還免除規定を緩和し、今年度は新たに十五人に貸与いたしました。

講座への見学、研修に行く機会を得ましたのでここに報告します。



研修では、デンバーの AFW イリアムというクリニックを中心に、コロラド大学、へき地の小規模病院、診療所

などを見学してきました。コロラド州の家庭医は、日本のへき地で診療している医師と非常に似ている部分と、かなり異なっている部分がありました。最も異なっていると感じたのは、家庭医がきちんと制度化されていることです。家庭医養成のためのプログラムが内科や外科の研修プログラムと同じように存在していて、例えば外科の研修プログラムは卒業後五年間ですが、家庭医は三年間で、研修の具体的内容が定まっております。一旦認定された後も、家庭医を維持するためには七年ごとに試験を受ける必要があります。家庭医の仕事は、一般的には高血圧、糖尿病、高脂血症などの慢性疾患のコ



ントロール、肺気腫、喘息などの治療、上気道炎、中耳炎などの急性疾患への対応、子供の健康診断、ワクチンの接種、細胞診などを含めた婦人科の検診、出産前後の妊婦の管理等ですが、正常分娩であれば取り扱う家庭医もいます。医療者側から専門科として神経内科、整形外科などと診療範囲を規定するのではなく、住民、患者の立場からみてよくある病気、検診といったものに対応していくという診療形態でした。総合医的な能力を要求される日本のへき地の医療と似ていますが、異なる点は、産婦人科の領域が入っていることと、また逆に内視鏡は専門医の仕事であることでした。また、心エコーも非常に特殊なものとして捉えられていて、

一般的には家庭医の仕事ではないことには驚きました。

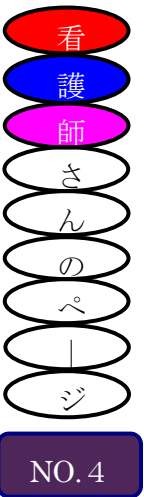
へき地にある程度長くいて診療を続けている家庭医は限られた医療資源の中で、患者のニーズに何とか応えようと努力している一方で、オフの時間を家族とアウトドアで過ごしたり、釣りをしたりと、地域に住みながら生活を楽しんでいるところは日本のへき地で診療する医師と同じです。また、医師として働いている以外に、地域で一住民として様々な役割を担いながら地域に溶け込んでいるところなども、国は違えどもよく似ていると感じました。人口四〇〇万人で日本の本州ほどの広さのコロラド州で、大学に何らかのつながりのある約一五〇〇人の家庭医兼教育担当の医師と約五〇〇人の家庭医が次世代の家庭医を育てるために協力し合っています。地域の医療を担ってきた約三〇年の歴史の重さを感じるとともに、人を育て、育てられた人がさらに人を育てるといふ教育の重要性を感じました。本当に住民のためになる医療を展開するために、現在の島根大学と島根県の地域医療への取り組みが一〇年後、二〇年後にシステムとして、うまく機能し、さらには全国に広がっていくことを祈っています。



救急看護認定看護師の資格を取得して

松江赤十字病院救命救急センター

看護師 中筋 真紀



私は、看護師として松江赤十字病院に勤務し、整形外科病棟を経験後、現在救命救急センターに所属しています。救急分野に配属となり十年が経過した昨年七月に、病院職員をはじめ多くの方々からのご支援を頂き、救急看護認定看護師の資格を取得することが出来ました。認定看護師とは、ある特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護が実践できる看護師であり、他の看護師や他の職種の医療者などの相談にのったり指導したりする役割を持っています。

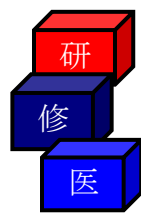
松江赤十字病院の認定看護師は、私を含め今年度六人となり、他に重症集中ケア、ホスピスケア、WOC（ストーマや創傷ケア）、感染管理分野で活躍しています。さらに、島根県内では、他に十一人の方々が活躍されています。



私は昨年、勤務しながら大阪の研修

学校に通うという生活を一年間送りました。週末のみの勤務であったため、病院の皆様には大変ご迷惑をかけたが、多大なるご支援を頂いたおかげでやり遂げることができたと心より感謝しています。資格を取得した現在も、現場で活動しながら研修会に参加したり実際に企画したりするなどキャリアアップを進めていける環境を与えて頂き、大変幸せに感じています。

今後さらに、地域における救急医療の特殊性を考慮し、より高度でかつ専門性の高い医療看護が提供できるよう一生懸命頑張っていきたいと考えています。



のページ



NO.9

松江赤十字病院研修医

木原 恭一

間もなく松江赤十字病院での二年間の卒後初期臨床研修を終えようとしています。たくさんの方の指導に教えを受け、ローテート科だけでなくあらゆる診療科の先生方にお世話になった二年間でした。研修の思い出は数多いけれど、

比較的当院に特徴的な研修と思われる緩和病棟での日々を思い出しながら紹介したいと思います。



最初にして最大の悩みは、「患者さんと何を話せばよいのだろうか」ということでした。大学を卒業して四ヶ月、患者さんが投げ掛ける苦痛や苦悩に対し、どうしてよいのか分からず病棟への足取りも重たくなったことを覚えています。患者さんの抱える不安と恐怖を計りかねて掛ける言葉が見つけられませんでした。死の絶望の淵で迷子のような研修医と接する患者さんの不安を考えると申し訳なく思ったりもしました。訪室するたびに絶望感から「鎮静してください」と涙を流して頼まれる患者さんがおられました。「どうせ研修医には何もできないのだろうか」とも言われました。一方で多くの患者さんは「待っていましたよ」と笑顔で迎えて下さり、指導医は「○○さん、昨晩は眠られたか?」、「○○さんの家族はどう言っているの?」と訊ねて下さり、病棟のスタッフの方は「○○さん、喜んでいましたよ」と声を掛けて下さいました。振り返ると患者さんを含め

たチームに教わり、励まされ、支えられたのは僕だったように思われます。患者さんが死に直面したときにやり場のない怒りをスタッフにぶつけることが許される環境も重要なかもしれせん。

技術的な向上に目を奪われがちな新卒の研修医ですが医療従事者という観点だけでなく、自分の人生を拓いていく意味でも吸収しやすいこの時期に終末期に関わることは大切なように振り返ります。

自分の力だけでは得られない研修をさせて頂いています。他の研修病院の話を耳にすることはあっても実際に研修したわけではないので比較はできず、当院の研修の良し悪しはわかりません。それ故、与えられる研修で満足しないように「食欲に」と心掛けて「明日も忙しく」と思います。

研修医意見交換会報告

研修医の生の声を、各臨床研修病院の研修プログラムや指導体制に反映することを目的に十一月三日、出雲市において「研修医意見交換会」を開催しました。当日は、六病院から十九名の研修医に参加いただき、グループワークを通して病院の指導体制のあり方を

はじめ、研修環境、処遇待遇など、様々な観点で活発な情報交換、意見交換が行われました。

県としてもこれらの意見を各研修病院にフィードバックするとともに、今後の参考とし、更なる研修体制の充実に努めてまいります。

【医療対策課 仕立】



▼ ワークショップで意見交換する研修医

医学生を対象に 地域医療セミナー開催

医学生に、地域医療についての理解をより深めていただくため十一月二十五日、出雲市で隠岐島前病院長の白石吉彦先生と県立中央病院小児科医長の津村久美先生を講師に迎え、第一回地域医療セミナーを開催しました。セミナーには島根大学や広島大学から十七名の医学生が参加してくれました。

白石先生からは、隠岐島前での充実したライフワークを中心に地域医療現場の実情やチーム医療の重要性などについて、ユーモアを交えながら熱く語っていただき、医学生たちはその話に目を輝かせながら聞き入っていました。また、津村先生から「女性医師として思うこと」をテーマに、医師と母との両面から働きやすい環境づくりには何が必要かについて話していただきました。講演を聞いた女子医学生は「これまでを受けた授業やセミナーでは、今日の講演のような話しを聞く機会がなかった。仕事と家庭の両立についての話しなど、直接先輩から聞いたことは自分にとってプラスになった。」と満足そうな口ぶりで話してくれました。

【医療対策課 口羽】



▼ 講演の後、ワークショップで意見交換する医学生

国立病院機構

浜田医療センターですー！

院長 日野理彦



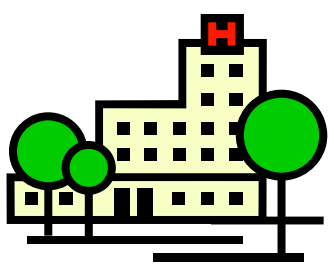
浜田医療センターの概要と今後の目標についてご説明します。興味を持っていただければ幸いです。

浜田医療センターは、一般病床354床（救命救急十床そのうち二床がICUで、ほかに感染症四床、セミナールーム二床があります）、診療科は二十二科、医師数は常勤医四十二名、非常勤医十数名です。平成十九年四月に形成外科を新設予定で、併せて二十三科になり、医師数も増えます。また、平成十九年四月から臨床研修医三名が研修を始めます。地域医療支援病院、救命救急センター、地方がん診療連携拠点病院など多くの施設認定を受けています。外来患者数一日約五〇〇名、救急患者数一日約五〇名、救急車一日約八台、手術件数一年約一千六百件です。

NSTチームおよびクリティカルパスチームの活動と研究は全国レベルです。また医療安全チームの活動も着実な成果を挙げています。

当院は島根県西部医療圏の中核病院として整備を進めております。平成二十一年夏には浜田駅近くに新病院を建設予定で、さらに装備を充実させます。当院が求められているのはレベルの高い総合医療センターです。この地域の患者様がどんな病気になられても広島市や出雲市の病院に入院しなくてもよいようなレベルの高い病院にならないければなりません。医療完結率九〇〜九五をめざしています。

当面の課題は麻酔科医、内科医、皮膚科医、歯科口腔外科医の増員です。我々と一緒に良い病院造りに力をあわせてくれる人を求めています。当院の医師は若い人が多く活発で熱心です。診療科の壁もなく、仕事は比較的しやすいと思います。浜田医療センターで働きませんか。



診療所に赴任して

邑智郡美郷町大和診療所

所長 石田雅人



昨年九月一日に島根県立中央病院より美郷町大和診療所に赴任しました。現在約四か月が経ちましたが、当診療所の紹介も兼ねまして、赴任してからの感想などを述べさせていただきます。

当診療所には入院施設はなく、スタッフは医師一名、看護師三名、医療事務一名の計五名です。外来患者さんは一日平均五〇〜六〇人ほどで、そのほとんどが生活習慣病をもつ高齢者の方々です。診療所の近くには養護老人ホームがあり、週に数名の外来受診があります。重症患者さんは希望により最寄りの基幹病院へ搬送しています。美郷町は島根県ですが、診療所がある地域（旧大和村）は地理的に広島県三次市に近く、当診療所からの紹介も三次市の医療機関が多いです。

昨年十一月から経鼻内視鏡検査を新たに始めました。鼻から入れる胃カメラという聞き慣れない検査に最初不安が強いようでしたが、好奇心もあつてか、現在三〇名ほどの方に検査を受けていただくことができました。胃がん

検査の精密検査の目的の方が多いです。経鼻内視鏡は鎮静剤や鎮痙剤を必要としないため、合併症の多い高齢者に比較的安全に施行できる検査です。美郷町のような高齢者の多い地域に適した検査と思われます。

診療所での勤務は今回が初めてのため他の診療所と比較することはできませんが、思っていたより外来患者さんが多いという印象です。今後は、地域の方々に信頼される診療所になるように診療内容を充実させていきたいと思っています。



邑智郡美郷町大和診療所

表1. 医師の必要数と現員数〔2次医療圏・施設別〕

医療圏	必要数 ①	現員数(常勤換算後)		差引 (不足数) ①-②	充足率 ②/①
		②	うち常勤 医師数		
松江	406.8	348.0	317	58.8	85.5%
雲南	86.1	62.7	48	23.4	72.8%
出雲	239.2	195.4	179	43.8	81.7%
大田	87.6	64.6	53	23.0	73.7%
浜田	162.6	119.9	105	42.7	73.7%
益田	130.8	98.2	86	32.6	75.1%
隠岐	37.7	30.2	27	7.5	80.1%
合計	1150.8	919.0	815	231.8	79.9%

注1)平成18年10月1日現在 「平成18年(2006)勤務医師実態調査」より
注2)島根大学医学部附属病院を除く

表2. 医師の必要数と現員数〔診療科別〕

診療科	必要数 ①	現員数(常勤換算後)		差引 ②-①	充足率 ②/①	備考
		②	内常勤医			
内科群	418.8	331.0	290	87.8	79.0%	内科、心療内科、神経内科、呼吸器科、消化器科、胃腸科、循環器科、7科以上科
精神科	89.0	76.5	62	12.5	86.0%	
小児科	61.0	45.3	42	15.7	74.3%	
外科群	142.3	129.8	123	12.5	91.2%	外科、形成外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科
整形外科	99.3	81.0	73	18.3	81.6%	
脳神経外科	29.5	27.2	26	2.3	92.2%	
皮膚科	23.6	11.8	6	11.8	50.0%	
泌尿器科	36.9	33.7	31	3.2	91.3%	
産婦人科	50.9	39.8	36	11.1	78.2%	産婦人科、産科、婦人科
	産科	44.4	36.7	35	7.7	
眼科	27.0	15.6	12	11.4	57.8%	
耳鼻咽喉科	24.0	17.9	13	6.1	74.6%	
リハビリテーション科	35.4	22.5	24	12.9	63.6%	
放射線科	40.3	32.6	29	7.7	80.9%	
麻酔科	45.4	32.5	27	12.9	71.6%	
救急	13.0	10.0	10	3.0	76.9%	
その他	14.4	11.8	11	2.6	81.9%	リハビリ科、病理、検査、検診
合計	1,150.8	919.0	815	231.8	79.9%	

注1)平成18年10月1日現在 「平成18年(2006)勤務医師実態調査」より
注2)島根大学医学部附属病院を除く

県内医師232人不足

初の勤務医師実態調査で

医師不足が数値で裏付け

県では、島根大学医学部と合同で県内の全病院（六十一病院）と二十八の公立診療所を対象に勤務医師実態調査を行いました。その結果、現行の診療体制で平成十九年四月に必要な人員は、千五百五十一人で不足数は約二割にあたる二百三十二人。また、診療科別で充

足率の低いのは、皮膚科（50%）、眼科（57.8%）、リハビリテーション科（63.6%）、麻酔科（71.6%）、小児科（74.3%）であり、全体として充足率が低いのは、中山間地域を抱える医療圏で、医師の地域における偏在が浮き彫りとなりました。

なお、この調査結果は、「島根県地域医療支援会議」で報告し、今後の地域医療確保対策を検討する上での基礎資料とします。

※ 非常勤医師については、勤務時間間で常勤換算をしています。

【医療対策課 古瀬】

島根県の移植医療について

平成九年十月に「臓器の移植に関する法律」が施行され、我が国でも脳死による臓器移植の実施が可能となりました。

島根県では、移植医療の推進に向けて体制を整備するため平成一〇年二月に市町村及び関係機関の御支援により、(財)島根難病研究所に心臓や肝臓などの臓器だけでなく角膜や骨髄移植も含めた移植の複合バンクである「しまねまごころバンク」を設立するとともに

に、あわせて同研究所に「臓器移植コーディネーター」を配置しました。「しまねまごころバンク」では、移植医療について正しく理解していただくために、患者団体やライオンズクラブなど関係協力団体との連携のもと、広報や各種イベントへの参加、勉強会等の開催などの啓発活動を実施しています。

とりわけ、骨髄移植については、県内の保健所で登録窓口を設置するとともに、赤十字血液センター、事業所及びボランティア団体等の協力を得ながら全国でもまれな、献血会場でのドナー登録会を実施しているところです。今後も、臓器移植に関する正しい情報の提供やイベントの開催など、県民の皆様に分かりやすい啓発活動をおこなっていきます。

【医療対策課 中島】



しまねまごころバンク主催
献血並行型骨髄ドナー登録会

県のドクターバンクから

●求人・求職取扱状況

(平成18年12月1日現在)

<求人> 26件

邑智郡(病院)／整形外科、精神科
 浜田市(病院)／内科
 出雲市(診療所)／胃腸科、肛門科
 邑智郡(病院)／内科、整形外科、在宅医療
 鹿足郡(病院)／内科、外科
 仁多郡(診療所)／内科
 浜田市(診療所)／内科
 鹿足郡(病院)／放射線科、内科、麻酔科
 益田市(病院)／内科、循環器内科、神経内科、呼吸器内科
 松江市(病院)／内科、麻酔科
 浜田市(病院)／内科、放射線科
 江津市(病院)／精神科
 仁多郡(病院)／眼科、内科
 松江市(その他)／不問
 松江市(病院)／内科、リハビリテーション
 出雲市(病院)／内科
 浜田市(その他)／内科
 鹿足郡(病院)／整形外科、内科、リハビリテーション
 松江市(病院)／内科、整形外科
 邑智郡(病院)／内科、整形外科、産婦人科、放射線科
 松江市(その他)／不問
 雲南市(病院)／麻酔科、精神科、内科、循環器内科、皮膚科
 大田市(病院)／精神科、内科
 大田市(診療所)／内科
 雲南市(病院)／神経内科、腎臓(循環器)、外科
 益田市(病院)精神科

<求職>

●申し込み手続き及び詳細につきましては、当紹介所までお問い合わせ下さい。
 [電話番号]0852-21-8813(専用電話)
 [ホームページアドレス]
<http://www.shimane.med.or.jp/dcbank.htm>
 【担当:塩田・嘉本】

島根の地域医療視察ツアー

参加者募集

島根県では、将来県内で勤務を考慮しておられる医師やそのご家族を対象に地域医療の視察ツアーを開催しています。自然を余すことなく満喫できる島根の地で、実際にその目で町の雰囲気や病院、診療所をみてください。

日程や視察コースは、ご希望に応じますのでお気軽にご連絡ください。

○対象

◆将来島根県での勤務を考慮しておられる県外の医師及びそのご家族。

○ツアーの費用

◆県の規程に基づき、原則2泊3日分(2名分)の旅費を県が負担します。

○申込方法など

◆参加希望の方は、お気軽に医療対策課医師確保対策室までご連絡ください。

※Eメールでの申し込みは島根県ホームページに「参加申請書」を載せていますので、ご利用ください。

<http://www.pref.shimane.lg.jp/iryota/saku/>

島根県で勤務したい方へ

島根県では、県内で勤務していただける医師を探しています。全国どこへでも専任の担当者が出張し、電話やメールでは相談しにくい、細やかな相談にも応じます。お気軽に**医師確保対策室**までご連絡ください。

また、友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、同意を得た上で、**医師確保対策室**までご紹介ください。

ご紹介いただいた医師へは、医療機関の情報等を提供し、県内での勤務を支援します。

このポスターを県内の病院や施設に掲示し、医師の紹介を呼びかけています。

島根県医療対策課 医師確保対策室の連絡先

〒690-8501 松江市殿町1番地
 E-mail: iryota@pref.shimane.lg.jp
 TEL: 0852-22-6684
 FAX: 0852-22-6040
 ホームページ[島根の医療]:
<http://www.pref.shimane.lg.jp/iryuotaisaku/>

しまねがイチバン

日本初!



写真提供: 隠岐の島町
 隠岐の島町にある西郷岬(さいごうみさき)灯台は大正10年3月31日、隠岐諸島で最初に建てられた灯台で、日本で初めて国産の4等レンズが使用されている。

日本一!



写真提供: 島根県教育委員会
 昭和59年7月に、全国で例を見ない35本の銅剣が斐川町の荒神谷遺跡で発見された。それまでの弥生時代の青銅器文化や古代出雲の概念を覆す大きな発見となった。